

読書のまち・かわさき通信 No.68

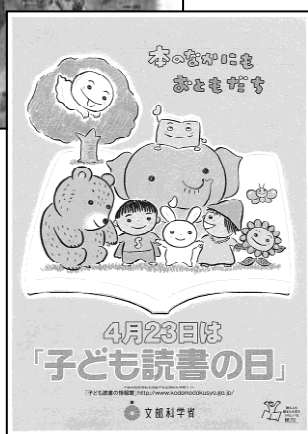


読書のまちかわさき

「読書のまち・かわさき」事業推進委員会
川崎市教育委員会 学校教育部

2015. 4. 17発行

**4月23日～5月12日は『こどもの読書週間』、
4月23日は『子ども読書の日』です**



子どもたちにもっと本を、もっと本を読む場所をとるの願いから、「こどもの読書週間」は昭和34年に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である平成12年(2000年)より現在の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日に期間を延長しました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。さらに、平成13年12月に公布・施行の「子ども読書活動推進法」により4月23日が「子ども読書の日」となった影響もあって、「こどもの読書週間」は年々大きな盛り上がりを見せています。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「子ども読書の日」であり「こどもの読書週間」です。

2015年、今年の「こどもの読書週間」の標語は、「**本は キラキラ ^{まんげきょう}万華鏡**」です。

昨年度の標語募集で応募総数2802点の中から選ばれた飛岡光枝さんの作品です。

「小学校の工作の時間、色紙やビーズがさまざまな模様を作り、のぞくたびに変わった表情を見せてくれる万華鏡に夢中になりました。本もまた、開くたびに千差万別の世界を見せてくれます。すてきな世界をたくさんぞいてみて、というメッセージを込めました。」と言っています。

学校教育において読書教育がすすめられています。家庭・地域での読書のすすめも非常に大切なものだと考えます。家庭における読書環境の整備については、次のようなことがあげられます。

- ① 幼児には父母が本を読んで聞かせてあげる。
- ② 短い時間でも本を読むことを勧め、子どもが本を読むのを聞いてあげる。
- ③ 父母自らが読書する姿を、子どもたちに見せる。

ここから本を通じた話題が生まれ、親子の対話が生まれます。この読書週間が、子どもたちにとって、たくさんのすばらしい本に出会えるよい機会となることを願っています。

平成27年度「読書のまち・かわさき」主な事業計画

平成16年4月に「読書のまち・かわさき」子ども読書活動推進計画が策定され、川崎の読書活動推進のために継続的な事業を展開してきました。今年度も川崎の子どもたちの読書環境向上に向けて様々な活動を行っていききたいと考えています。

- ★「子ども読書週間」の読書啓発活動
 - ・アゼリア地下通路での図書館マップ、ポスター等の展示

- ★全市図書館ボランティア研修会（作家等の講師をお呼びしての講演会）
 - 第1回7月7日（火）中原市民館・第2回1月19日（火）中原市民館
 - ・全市の図書館ボランティアの皆様や、市民の皆様どなたでも参加できます。

- ★かわさき読書週間 10月25日（日）～11月7日（土）
 - ・各学校での読書活動の推進
 - ☆ボランティアや図書館委員会児童生徒による読み聞かせや全校一斉読書、また読書集会など、学校の特色を生かした取組をします。
 - ☆市内児童生徒を対象に、読書標語やポスターなどを募集します。
 - ・各区公共図書館での読書イベントの開催（読み聞かせ・おはなし会等）
 - ・読書週間ポスター・チラシ配布

- ★かわさき読書の日のつどい 11月1日（日）中原市民館
 - ・読書活動優秀団体表彰
 - ・児童生徒読書活動作品展示
 - ・作家と子どもたちとの交流 などを行います。

- ★子ども読書カレンダー配布 など
 - ※他にもたくさんの事業を計画しています。

「読書のまち・かわさき」がパワーアップします！



読書のまち・かわさき

平成26年度に学校図書館法が一部改正され、初めて「学校司書」の言葉が明記されました。それに伴い、今年度より学校図書館コーディネーターの名称が「総括学校司書」と変更されました。従来の学校図書館コーディネーター（巡回型の学校司書）と同様の仕事内容で、区内の学校図書館を巡回し、総括的に支援していきます。

また、今年度より、学校司書モデル校配置事業（各区1校）がスタートしました。学校司書とは、専ら一つの学校図書館の業務に従事する方のことで、このモデル校の取組は読書のまち・かわさき推進事業の新規事業となります。

「学校司書」と「総括学校司書」で、名称や取組は異なりますが、いずれも、学校図書館の活性化や子どもたちの読書活動の推進のために活動していきます。